

---

# YUIが悪と闘ったら 2 1

pokemomtyan

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

YUIが悪と闘ったら21

### 【Nコード】

N7321T

### 【作者名】

pokemomtayan

### 【あらすじ】

ついに海外編がクライマックス。

もしもYUIが聞いたら(前書き)

感想を書いてね。

## もしもYUIが闘ったら

YUI（カダファイ・・等々現れたか怒。）カダファイ（クハハハハ。海外編に突入して1か月になるし、そろそろ次の話を書きたい頃だと作者は思っているだろう・・今日でお前を殺し、終わりにしてやる！）YUI（喰らえ！ギターの仕込み刀の剣技・・Rain斬り！）YUIは仕込み刀を真っ直ぐに向けて、カダファイに食らわそうとした。カダファイ（ほう・・まるで水を帯びた雨が滴るような剣技だな・・だが、俺は覇気を習得している。水如きで俺がビビる訳がねえよ。喰らえ・・さ）カダファイが技を出す瞬間に、YUIの刀がカダファイの頬を切り裂き、カダファイは飛ばされた。YUI（私はなあ・・したくも無い勝負に毎度巻き込まれて、自然に覇気が上がってしまったんだ！ロギアの貴様の攻撃も喰らわん叫！）仰向けになったカダファイは笑いながら立ち上がった。カダファイ（クハハハハ。俺が攻撃を喰らうとはな・・）YUI（もう一度喰らえ！TOKY OU斬り！）カダファイ（喰らうか小娘！）カダファイは右手を曲げてYUIの腕に当てた。YUI（しまった！）カダファイ（終わりだ！バルハン！（三日月砂丘）。）YUIの左腕が砂の技を喰らい、みるみる内に干からびていった。YUI（うぎぎ・・力が出ない。）カダファイ（クハハハハ。そりゃそうだ。その左腕は水分を抜かれて（血）、その手には何もねえよ笑。）YUI（水分補給！）YUIはペットボトルの水分を飲んだ。YUI（ハアハア。何でだ？水分を飲んで腕は戻っているのに、喉が乾いてくる・・この砂上の国で冷えた水分は無くてホットな感じだったけれど・・お前、私の体に他に何をしたんだ！）カダファイ（いや・・何も。バルハン以外はしてねえよ・・お前が飲んだ水分は何なんだ？）YUI（何か口の中もゴモゴモする・・これって？何？赤黒い物が入ってる？お前！本当に何かしていないのか？）カダファイ（ごちゃごちゃうるせえよ怒！何もしていないだろ！）その時、明日からのお笑いシリーズで主

役を張る、菅直人が血だらけになりながら現れた。菅直人（ハアハア YUI。俺様が今朝、ペットボトルに入れた水分は旨いだろ。）  
YUI（お前・・・何を入れたんだ。無茶苦茶喉が乾いてくるぞ。何を入れたか言え！）菅直人（何ってお前・・・力を付ける為に俺様が作って入れたんだ、旨いだろそのお汁粉！）YUI（お前は怒・・・）  
カダファイ（クハハハハ。傑作だ笑。）菅（カダファイ・・・貴様、許さんど！俺様のボルテージを上げやがって怒。明日からは俺様が限定期間で主役の話が連載する！悪いが、貴様を俺様が倒すぞ叫！）菅はシャツの袖を肩までまくり、腕を振り回し始めた。YUI（本当に、良いこと一つも出来ないな・・・）カダファイ（ほう・・・来るか？）  
菅（喰らえ！カンカンの・・・）YUI（へ〜これは初めてのパターンだな。）菅（ピストル叫！）菅の腕は別にゴムのように伸びる訳では無く、拳を真つ直ぐ向けたまま走ってカダファイに向かっていた。そして、当たったが砂にカダファイはなり、攻撃は当たらなかった。カダファイ（お前は本当に空き缶だな・・・）カダファイは菅の首を手で掴んだ。菅（や・べろ・・・干からびる・・・）カダファイ（クハハハハ。長芋のフリーズドライの出来上がりだ笑！）カダファイは菅を捨て、菅は風に乗って空に飛んで行った。YUI（日本に帰れるなあの方角だったら。）カダファイ（喰らえ！サーブルス（砂嵐）！）  
カダファイは砂嵐を作り上げ、YUIに向けた。YUI（喰らうか！Rolling回転斬り！）YUIは回転をしながら風力を起こして、砂嵐を蹴散らした。カダファイ（いろいろ、邪魔が入ったがケリを付けてやる！デザートサーブルス！）カダファイは砂嵐の形を、刀に代えて斬撃をYUIに向けようとした。YUI（うわ！危ない！何とか避けたけど・・・）後ろにあった宮殿のブロックが切り刻まれた。YUI（何て破壊力だ。）カダファイ（もう一度喰らえ。デザート・・・）YUI（遅い！It's My Life 斬り！）カダファイの右肩を斬った。カダファイ（くそ！覇気も中々あるじゃねえか・・・何回も・・・）YUI（そして、もう一回！覇気ジェットチェリー突き！）  
カダファイは腹の真ん中に諸に刀が刺さり飛ばされた。カダファイ（ハ

アアア。血が出てくるぞ。何年ぶりに見る血だ・・・昔は俺も相当強かったが、腕が落ちたものだ。(YUI(諦めて、公算しろ。)) カダファイ(クハハハハ。残念だが、俺は諦めが悪いんだよ・・・YUI! 貴様に面白い物を見せてやる。) カダファイは血を流しながら、ニヤニヤ笑い左手を地面につけた。YUI(何?) カダファイ(ハアハア。砂つてもものはな、大地を干からびさす能力も持っている・・・) YUI(まさか!) カダファイ(喰らえ砂奥義! グラウンドレス!) カダファイが叫ぶと、大地が割れて周りの石像や植物、プールの水が乾き始め、砂になっていったのである。YUI(恐ろしい!) YUIは反転をして、高い柱の上に立った。カダファイ(逃げ足だけは早いなあ。だが、貴様は俺に勝てん。) YUI(喰らえ! again 斬り!) YUIはジャンプをしてカダファイを斬ろうとしたが、隙が出来てしまった。カダファイ(クハハハハ。ゴミ屑が! 俺が勝つたな! デザートスパード! 砂の斬撃をYUIは諸に喰らった。) YUI(がはあ!) YUI仰向けには倒れた。カダファイ(その血の流れ方じゃあ、もう立てねえだろ。無様な笑。クハハハハ。俺こそが神となる男だ・・・ついでに水分も抜いておくか。) カダファイはYUIの首を掴み、ジワジワと血液を抜いて行った。YUI(や・べ・て) カダファイ(クハハハハ。みるみる内に乾いてくるな。俺に逆らったことを後悔させてやる。) その時、辺りが炎に包まれた。カダファイ(彼奴か怒・・・ムバラクの馬鹿はしくじりやがったか怒。) 水嶋ヒロ(そうだ! この通り、黒こげにしてやったぜ笑) 神崎昴(もう観念しろ。カダファイ叫!) カダファイ(クハハハハ。火で砂の俺を倒せるのか! あの世に行くのは貴様等だ。) YUI(うおー!) カダファイ(何!) YUI(Iwanna be 斬り!) YUIの横に振った刀は、カダファイの腸を斬った。カダファイ(お前・・・何故だ!) YUI(あゝもう1本ペットボトルの飲料があったから、因みにこれもあのアホ・・・コーンポタージュを入れてみたいだな。) カダファイ(喰らえ! ラスパード!) カダファイは砂で斧の刃を作り、YUIにあびせようとした。YUI(ケイトの件は許さんぞ! ゴミ屑叫

！) YUIは斬撃を弾き炎の中に入った。カダファイ(ハアハア。馬鹿め逃げるか?)すると、歌が聞こえてきた。YUI(HELLO HELLO HELLO)カダファイ(ギターを弾いているのか?何だ?何処にいるんだ?)カダファイはそわそわし始めた。YUI(終わりだ・カダファイ・)カダファイ(しまった!後ろか! サールブルス!)砂嵐を練り出したが、YUIはいなかった。カダファイ(後ろに居ない?何故だ!)YUI(正面だ・・)カダファイは恐る恐る前を向いた。YUI(喰らえ怒!新曲奥義!HELLO斬り!)覇気と水分をまとった、YUIの刀はカダファイを斬った。カダファイ(血が・・噴出してくるぞ。感じる・・俺の死が。)カダファイは倒れた。YUI(終わった。)神崎昴(1か月の長い戦いだっとな。)水嶋ヒロ(皆が待っている、いこうや。)YUIは空を見上げた。すると空から雨が降ってきた。YUIは暫く皆と雨が降る空を眺めていた。終 菅直人(明日は俺様が主役だ叫!)

もしもYUIが聞いたら(後書き)

感想を書いてね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7321t/>

---

YUIが悪と闘ったら21

2011年6月1日14時55分発行